

令和6年度 第3回 国有林材供給調整検討委員会

< 次 第 >

日時：令和6年12月12日（木）13：30 - 15：30
場所：中部森林管理局 大会議室

1 開会

2 森林整備部長あいさつ

3 議事

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4 閉会

令和6年度 「国有林材供給調整検討委員会」 委員等名簿

検討委員会 委員

区 分	所 属	氏 名
学識経験者	信州大学名誉教授	植木達人
関係行政機関の職員	富山県農林水産部森林政策課 主幹	平野雅治
関係行政機関の職員	長野県林務部信州の木活用課 県産材利用推進室長	小林健吾
関係行政機関の職員	岐阜県林政部県産材流通課長	垂見光貴
関係行政機関の職員	愛知県農林基盤局林務部林政課 あいちの木活用推進室長	大田圭一郎
川上・川中	長野県森林組合連合会 業務課長	田口連蔵
川上・川中	岐阜県森林組合連合会 木材流通事業本部長	岩木克也
川上	平澤林産有限公司 代表取締役	平澤照雄
川上・川下	株式会社勝野木材 代表取締役社長	勝野智明
川中・川下	株式会社東海木材相互市場 代表取締役会長	鈴木和雄
川下	ウッドリンク株式会社 代表取締役副会長	原野哲雄

中部森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	村上卓也
資源活用課長	上田喜幸
企画官（木材需給対策）	芳沢真一
企画官（間伐推進）	下平明博
企画官（長期安定供給）	古畑輝雄

官 職	氏 名
上席技術指導官（木材供給）	谷澤恭子
供給計画係長	田中真二
素材供給係長	倉石明典
供給計画係	菊地真以

令和6年度第3回国有林材供給調整検討委員会

(概要)

1. 開催日時

令和6年12月12日(木) 13時30分～15時30分

2. 開催場所

中部森林管理局 大会議室

3. 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4. 検討結果

全国的な木材需要動向を見ると、新設住宅着工戸数の減少傾向が続いており、今後についても大幅な回復は見込めず、前年度同水準に留まるのではないかとの見方がある。また、プレカット工場の受注率についても、新設住宅着工戸数の伸び悩みの影響から低調に推移し、実需回復の兆しは見えない。

一方、中部森林管理局管内の現状を見ると、プレカット工場の稼働状況は若干上向き傾向となっているものの、原木の出材減が各方面に大きな影響を及ぼしており、先行き不透明な状況となっている。

こうした状況を踏まえ、中部森林管理局では出材減とならないよう、引き続き本年度に計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材供給を実施することにより、管内の市況の安定化を図ることが重要であり、現時点での供給調整は必要ないものとする。

なお、本年度に講じた予防的な措置の効果や地域における木材需給動向等を引き続き注視し、各方面にアンテナを高くしながら国有林材の安定供給に努めていく必要がある。

5. 委員意見等

- 私有林では、県の予算が減少したことで私有林からの出材が鈍っている。今の状況が来年まで続くようであれば深刻な事態となりかねない。
- 気候変動等の影響により、季節感による例年通りの対応で進めることが難しい状況になってきている。事業発注のタイミングなどもずれてきているように感じている。

る。その辺りの対応を考えていく必要がる。

また、現状では木材が足りていない状況であるため、需給安定の意味からも粛々と事業を進めていただきたい。

- 状況的には、民有林からの出材が少なく材がまとまらない状況。国有林については安定的に出材されているが、今後、国有林の今年度事業が終了する中で、民有林からの出材が少ない状況が続くようであれば、かなり厳しい状況となることが予想される。来年度についてもこのような状況が懸念され、不安材料が多い。

国有林の状況をみると、ある地域において製品生産事業の落札率が悪すぎる。このような時に地域別ではなく、不調の地域を他地域がうまく補い、全体として落ち込まない仕組みにできないか。国有林からの安定的な出材が欲しい。

- 1月の能登半島地震により素材の調達が困難になると予測し、在庫不足とならないよう確保に努めた。10月までは安定的な入荷ができたが、11月からは在庫が減る中で入荷が減少している。

様々な理由があるのだろうが、川下としては年間を通して必要な量を安定的に減産などせず全て計画通りに供給してほしい。

製材工場の設備投資をしており、生産量40-50%の増産を目指している。国産材の需要に対して製材工場の役割を果たすべく先行投資をしているが、問題は山側で素材を安定供給してくれるかということである。減産とならないよう進めていただきたい。

- 素材の入荷が落ち込んでおり、絶対量が少ない。並材は売れるが役物に近いものが売れない。スギの大径材は今までは売れないと言っていたが最近では丸太自体が入ってこない。用途が乏しいのではないかと思う。ヒノキについては寺社仏閣などの大きな物件が少なく並材が下になるので役物も足を引っ張られる。先行きは良いとは言えない。

最近の林業業界では、もう二度と植林をしないという。それは、植林してもシカに食われてしまうからであり、これでは伐採することもできない。この対策をしないと植林も伐採も進まない。

以上